

担当センター名		中部地方ESD活動支援センター
プロジェクトのテーマ		ローカルSDGsのためのESDの社会実装
プロジェクト期間		2021年6月～2021年12月（とりまとめについては～2022年3月）
達成目標		①専門家メンバーによる議論の場の構築 ②オンラインとリアルによるSDGs社会教育の実践 ③①と②を受けた「(仮)中部版ESDワークブック～学生・社会人のための地域社会SDGs実践」（プロトタイプ版）作成
コアメンバー(団体・個人)		【専門家コアメンバーワーキンググループ】 古澤礼太 中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授 中部ESD拠点協議会事務局長 水上聡子 EPO中部運営委員 アルマス・バイオコスモス研究所代表 堺 勇人 EPO中部運営委員 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長 原 理史 中部地方ESD活動支援センター 中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員（非常勤） オブザーバー：佐藤堅太 環境省 中部地方環境事務所環境対策課主査 事務局：清本三郎 EPO中部統括 【リソースパーソン（その他の登壇者、助言者）】 佐藤真久 東京都市大学大学院環境情報学研究所 教授 楠井隆史 富山大学名誉教授 境 信誓 六渡寺自治会長（富山県射水市）
実施内容	勉強会①	SDGs社会教育研究ワーキング第1回（クローズ）7月6日＜参加者7名＞福井県福井市 1. 自己紹介と参加者ESD活動内容の共有 2. 研究会ワーキングの議論
	勉強会②	SDGs社会教育～学び合いの場①（オープン）8月26日＜参加者65名＞オンライン 【地域拠点(参加)】一般社団法人長野県環境保全協会、ネクストステップ研究会、特定非営利活動法人エコプランふくい 【地域拠点(企画運営)】一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）、中部ESD拠点（RCE Chubu） ○基調講演「ローカルSDGsの担い手に求められる資質・能力、知性とは～持続可能な社会に向けて、好循環を生み出す人のあり方、学び方、働き方」 ○話題提供「求められる担い手：福井県坂井市のまちづくりの取組から考える」 ○パネルディスカッション&フロアディスカッション
	勉強会③	SDGs社会教育～学び合いの場②（オープン）9月16日＜参加者38名＞オンライン 【地域拠点(参加)】一般社団法人長野県環境保全協会、ネクストステップ研究会、特定非営利活動法人エコプランふくい、名古屋ユネスコ協会 【地域拠点(企画運営)】一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）、中部ESD拠点（RCE Chubu） ○基調講演「ローカルSDGsの担い手を育成する、SDGs社会教育実践の現場から」 ○話題提供「担い手を増やすために～環境市民プラットフォームとやまの取組」 ○パネルディスカッション&フロアディスカッション

	勉強会④	SDGs社会教育研究ワーキング第2回（クローズ）9月30日＜参加者8名＞富山県高岡市 1. イベント「学びあい①②」の振り返り 2. ワークブックの議論 3. 実践セミナーの計画
	実践活動	SDGs社会教育～実践セミナー（オープン）10月30日＜参加者47名（内オンライン23名）＞富山県射水市 【地域拠点(オンライン視聴)】一般社団法人長野県環境保全協会、ネクストステップ研究会、特定非営利活動法人エコプランふくい、名古屋ユネスコ協会 【地域拠点(現地企画運営)】一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）、中部ESD拠点（RCE Chubu） 【午前】六渡寺海岸視察&ごみ拾い体験 【午後】セミナー&ワークショップ ○話題提供「プラスチックの功罪、海ごみからのSDGsと市民意識」 ○話題提供「現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動について」 ○グループワークショップ「六渡寺海岸のプラごみからSDGsを考える」結果発表と討論 ○総括「実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民」
	勉強会⑤	SDGs社会教育研究ワーキング第3回（クローズ）12月16日＜参加者7名＞愛知県名古屋市 1. 実践セミナー（10/30）、全国フォーラムの振り返り（12/11） 2. ワークブックの議論
成果	目標達成度	①専門家メンバーによる議論の場の構築⇒完了 ②オンラインとリアルによるSDGs社会教育の実践⇒完了 ③①と②を受けた「(仮)中部版ESDワークブック～学生・社会人のための地域社会SDGs実践」（プロトタイプ版）作成⇒実施中
	プロジェクト関係者(コアメンバー、その他の参加者、実践活動の対象者)の変容	・研究会ワーキングの議論を通じてSDGs社会の「担い手」像の理解が深まるとともに、社会の取組＝個人の変容＝ESDという相互理解が得られた。 ・実践セミナーのアンケートでは、システム思考、規範的、協働的、自己認識などのコンピテンシー向上が自己評価でうかがえた。
今後の課題		本体制を継続することで社会ESD（SDGs社会教育）の実践に役立つ3年かけて作成するワークブックに発展する。